



(題字 小黒千足 学長)

第364号
(平成7年4月号)



▲ 名誉教授称号記授与式 (平成7年4月27日(木)於学長室)

目 次

学 長 告 辞

- ◆ 平成7年度富山大学入学式を举行 3

学 内 規 則 5

諸 会 議 14

学 事

- ◆ 平成7年度国際研究集会派遣研究員の決定 14

人 事 異 動 15

学 内 諸 報

- ◆ 名誉教授の称号授与 15

- ◆ 「平成6年度エネルギー管理功績賞」に
工学部宮下教授 18

- ◆ 海外渡航者 19

- ◆ 外国人来訪者 19

職 員 消 息

- ◆ 住 所 変 更 20

- ◆ 新 任 者 住 所 20

- ◆ 改 姓 23

- ◆ 訃 報 24

主 要 行 事 25

資 料

- ◆ 平成7年3月卒業者数 28

- ◆ 平成7年3月修了者数 29

- ◆ 平成6年度修了者一覧 30

学生生活へ夢いっぱい1,853名の入学

平成7年度富山大学入学式を挙行

—— 平成7年4月10日（月）富山市公会堂 ——

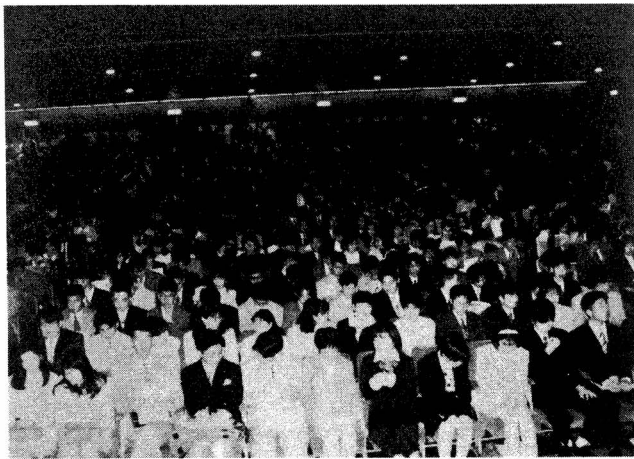
平成7年度富山大学入学式が、平成7年4月10日（月）午前10時30分から富山市公会堂において挙行されました。

まず、小黒学長から学部入学生1,542名、大学院入学生311名、合計1,853名（うち外国人留学生45名を含む。）の新入生に入学許可宣言があり、続いて学長から告辞がありました。

これに対して、新入生を代表して人文学部言語文化学科亀永真理さんが「私たち新入生一同は在学中学則を守り、自己の研鑽に努め、さらなる未来への展望を広げるとともに、より一層の学識を深めるよう努力いたします。」と力強く宣誓しました。式終了後新入生を歓迎して本学合唱団、ギター・マンドリンクラブ、フィルハーモニー管弦楽団による合唱及び演奏が行われ、引き続き、教養教育及び学生部・保健管理センターのオリエンテーションが行われました。



▲ 告辞の小黒学長



入学式学長告辞（全文）

本日富山大学に入学を許可された諸君に、全学の教職員を代表して、心から御祝を申し上げます。特に、新たに大学に足を踏み入れた学部入学生は、感慨も一入と思えます。

大学を目指して努力した結果が今実り、苦しかった受験時代は終わりました。これから待ちに待った大学生としての生活が始まります。ここに、諸君の夢の第一歩が実現したと云えましょう。

しかし、当然のことながら、大学に入学することが諸君の最終目的ではないはずです。したがって、現時点から卒業の時を思い浮かべ、その時、どのような人間でありたいか、大学で何を得心したいか、など、大学に入った目的を明かにしておく必要があります。

このことは、諸君が大学生として過ごす、今後の数年間を、いかに生き、どのように学ぶかを決定する大きな

要素であります。もし、大学に入学した目的が不明であれば、コンパスを持たない航海と同様、自らの位置も、到達点もまったく不明のまま時を過ごすことになりましょう。このことを十分に認識して、自らの目標を改めて確認することを希望します。

次に、大学教育の本質を説明致します。周知のように、現在の国際社会、国内社会の情勢、あるいは経済の動向は目まぐるしく変化しております。例えば、最近続く円高を、1年前に誰が予想したでしょうか。これは一つの例ですが、これから1年後の社会を予測するのは、はなはだ困難と云わざるをえません。まして、学部新入生諸君が卒業する4年後を考えることは殆ど不可能であります。

一方、諸君には卒業の 때가間違いなく参ります。その時、変化した社会情勢にどう対処するかで、その後の人生が決定されます。先に述べたように社会の変化は予測出来なくても、それに対処することは可能です。いかに

対処するかは、諸君が大学で何を学び取るかにかかっております。

大学で学ぶのは知識もあれば技術もあります。しかしながら、最も重要なことは、物事の本質を見抜く態度と力を養うことであります。本質が理解出来れば、おのずと対処の方法が生まれてきます。結論が唯一でなくても、方向を間違ふことはありません。諸君がどの学部へ属し、何を専攻されようとも、大学でしか得られない、本質を見抜く姿勢を学び取ることを期待いたします。

さて、大学の教育は高度の学問と研究に裏付けられたもので、それぞれの教官は、独自の研究、情報あるいは信ずる処に従って講義や実験を行います。従って、小学校、中学校あるいは高等学校のように、検定を受けた、画一的な教科書は用いません。全国どこの大学の講義も実験も同じ内容のものは一つとしてありません。たとえ、

講義の名称が同じでも、内容は異なり、それを支える哲学が違います。

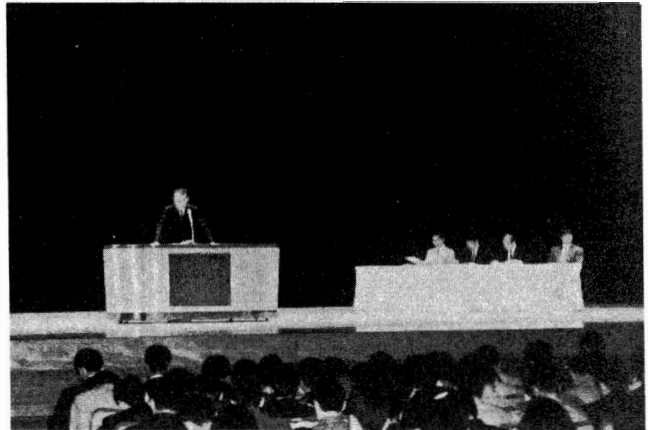
このことは、諸君が高等学校迄に受けた教育と、大学における教育の違いを最も良く示しております。諸君がこの意味を十分に理解して教室に臨まれることを希望いたします。

なお、大学院修士課程、あるいは博士課程に進学した諸君は、今述べたことは既に体得していることと信じます。大学院のそれぞれの課程で、更に高次の知識と技術を身につけ、また人間性の涵養も併せ、わが国の将来を担う人材として生長されることを望みます。

以上、大学入学にあたっての心構えと、大学における教育の本質について述べました。これらを心にきざみ、充実した学生生活をおくられることを願って告辞を終ります。



▲ 新入生を歓迎してのオーケストラ演奏



▲ 教養教育オリエンテーション



学 内 規 則

富山大学学則の一部改正

富山大学学則の改正理由

- 1 研究生，科目等履修生，聴講生，特別聴講学生，外国人留学生並びに他の大学又は外国の大学との協議に基づく当該大学における授業科目の履修等に関し，必要な事項を規則として制定することに伴い，所要事項を改める。
- 2 他の大学又は外国の大学において修得した単位について，当該大学との協議に基づかない場合であっても，本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができることとするため，所要事項を改める。
- 3 平成7年3月31日付け文高大第113号文部省高等教育局長通知に基づき，平成7年度から，人文学部，理学部及び工学部の学生定員の臨時増募を減ずるため，所要事項を改める。

富山大学学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

平成7年4月21日

富山大学長 小 黒 千 足

富山大学学則の一部を改正する学則

富山大学学則（昭和59年3月12日全部改正）の一部を次のように改正する。

第34条中「，30単位を超えない範囲で」を削り，同条に次の2項を加える。

2 前項の規定にかかわらず，本学が教育上有益と認めるときは，他の大学（短期大学を含む。）又は外国の大学（短期大学を含む。）との協議に基づかない場合であっても，学生が当該大学において履修した授業科目について修得した単位（休学中に修得した単位を含む。）を，学部の定めるところにより，本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 前2項の規定により修得したものとみなすことができる単位数は，合わせて30単位を超えないものとする。
第55条第2項，第3項及び第4項を削る。

第55条の2第1項中「，教育に支障のない場合に限り」の下に「，当該教授会において選考の上」を加え，同条第2項及び第3項を削る。

第56条第2項及び第3項を削る。

第62条を次のように改める。

（研究生，科目等履修生，聴講生，特別聴講学生及

び外国人留学生の授業料等）

第62条 研究生，科目等履修生，聴講生，特別聴講学生及び外国人留学生の検定料，入学料及び授業料の額並びに徴収方法は，別に定める。

別表第1中

人文学部	人文学科	70	280
	国際文化学科	40	160
	言語文化学科	95	380
	計	205	820

人文学部	人文学科	70	280
	国際文化学科	40	160
	言語文化学科	85	340
	計	195	780

理学部	数学科	53	212
	物理学科	47	188
	化学科	38	152
	生物学科	40	160
	地球科学科	32	128
	生物圏環境科学科	30	120
計	240	960	

理学部	数 学 科	52	208
	物 理 学 科	42	168
	化 学 科	38	152
	生 物 学 科	38	152
	地 球 科 学 科	30	120
	生物圏環境科学科	30	120
	計	230	920

に、

工学部	電子情報工学科	132	528
	機械システム工学科	101	404
	物質工学科	83	332
	化学生物工学科	86	344
	計	402	1,608

を

工学部	電子情報工学科	132	528
	機械システム工学科	101	404
	物質工学科	80	320
	化学生物工学科	79	316
	計	392	1,568

に、

合 計	1,522	6,088
-----	-------	-------

を

合 計	1,492	5,968
-----	-------	-------

に改める。

附 則

- この学則は、平成7年4月21日から施行し、平成7年4月1日から適用する。
- 富山大学学則の全部を改正する学則（昭和59年3月12日制定）の一部を次のように改正する。

附則第3項を次のように改める。

- 別表第1に規定する入学定員には、当分の間、次に定める定員を含むものとする。

学 部	学 科	定 員
人 文 学 部	人 文 学 科	5人
	言語文化学科	5
	計	10
理 学 部	数 学 科	2
	物 理 学 科	2
	化 学 科	3
	生 物 学 科	3
	計	10

工 学 部	電子情報工学科	12
	機械システム工学科	11
	化学生物工学科	4
	計	27
合 計	計	47

- 別表第1に定める収容定員は、平成7年度から平成9年度までは、次のとおりとする。

学 部	学 科 等	平成7年度	平成8年度	平成9年度
人文学部	人 文 学 科	305人	280人	280人
	国 際 文 化 学 科	120	160	160
	言 語 文 化 学 科	275	360	350
	計	700	800	790
	教育学部	小学校教員養成課程	400	400
	中学校教員養成課程	200	200	200
	養護学校教員養成課程	80	80	80
	幼稚園教員養成課程	120	120	120
	情報教育課程	160	160	160
	計	960	960	960
経済学部	経 済 学 科			
	昼間主コース	628	624	620
	夜間主コース	80	80	80
	経 営 学 科			
	昼間主コース	488	484	480
	夜間主コース	80	80	80
	計	1,760	1,750	1,740
理学部	数 学 科	211	210	209
	物 理 学 科	183	178	173
	化 学 科	157	152	152
	生 物 学 科	163	156	154
	地 球 科 学 科	126	124	122
	生物圏環境科学科	90	120	120
	計	930	940	930
	工学部	電子情報工学科	528	528
	機械システム工学科	404	404	404
	物質工学科	329	326	323
	化学生物工学科	337	330	323
	計	1,598	1,588	1,578
合 計	計	5,948	6,038	5,998

富山大学大学院学則の一部改正

富山大学大学院学則の改正理由

- 1 学校教育法施行規則の一部改正により、大学院への入学資格について、外国の大学に関する取扱いが改められたことに伴い、所要事項を改める。
- 2 大学院設置基準の一部改正に伴い、科目等履修生に関する事項を新たに定める。
- 3 研究生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、特別研究学生、外国人留学生並びに他の大学の大学院又は外国の大学の大学院との協議に基づく当該大学院における授業科目の履修又は研究指導を受ける場合の取扱いに関し、必要な事項を規則として制定することに伴い、所要事項を改める。
- 4 他の大学の大学院又は外国の大学の大学院において修得した単位について、当該大学院との協議に基づかない場合であっても、研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができることとするため、所要事項を改める。

富山大学大学院学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

平成7年4月21日

富山大学長 小 黒 千 足

富山大学大学院学則の一部を改正する学則

富山大学大学院学則（昭和53年4月1日制定）の一部を次のように改正する。

第16条第1項中「、学生に当該大学院の授業科目を履修させることができる」を「、学生が当該大学院において履修した授業科目について修得した単位を、研究科の定めるところにより、研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる」に改め、同条第2項を削り、同条第1項の次に次の2項を加える。

- 2 前項の規定にかかわらず、研究科において教育上有益と認めるときは、他の大学の大学院との協議に基づかない場合であっても、学生が当該大学院において履修した授業科目について履修した単位（休学中に修得した単位を含む。）を、研究科の定めるところにより、研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
 - 3 前2項の規定により修得したものとみなすことができる単位数は、合わせて10単位を超えないものとする。
- 第25条第1項第5号中「3年以上在学し」の下に、「又は外国において学校教育における15年の課程を修了し」を加える。

「第9章 研究生、聴講生、特別聴講学生、特別研究学生及び外国人留学生」を「第9章 研究生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、特別研究学生及び外国人留学生」に改める。

第36条の次に次の1条を加える。

（科目等履修生）

第36条の2 本学大学院の学生以外のもので、大学院が開設する一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、教育に支障のない場合に限り、当該研究科において選考の上、科目等履修生として入学を許可し、単位を授与することができる。

第40条中「、聴講生、特別聴講学生」を「、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、特別研究学生」に改める。

第43条を次のように改める。

（研究生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、特別研究学生及び外国人留学生の授業料等）

第43条 研究生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、特別研究学生及び外国人留学生の検定料、入学科及び授業料の額並びに徴収方法は、別に定める。

附 則

この学則は、平成7年4月21日から施行し、平成7年4月1日から適用する。

富山大学附属図書館商議会規則及び富山大学学部図書委員会規則の一部改正

富山大学附属図書館商議会規則及び富山大学学部図書委員会規則の改正理由

国立大学及び国立短期大学の事務局等の部、課及び室に関する訓令（昭和42年文部省訓令第20号）の一部改正により、附属図書館に事務部長並びに情報管理課及び情報サービス課が設置されたことに伴い、所要事項を改める。

富山大学附属図書館商議会規則及び富山大学学部図書委員会規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成7年4月21日

富山大学長 小 黒 千 足

富山大学附属図書館商議会規則及び富山大学学部 図書委員規則の一部を改正する規則

（富山大学附属図書館商議会規則の一部改正）

第1条 富山大学附属図書館商議会規則（昭和24年8月19日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1項第3号を次のように改める。

(3) 附属図書館事務部長

同号の次に次の2号を加える。

(4) 附属図書館情報管理課長

(5) 附属図書館情報サービス課長

（富山大学学部図書委員会規則の一部改正）

第2条 富山大学学部図書委員会規則（昭和24年8月19日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第2号を次のように改める。

(2) 附属図書館事務部長

附 則

この規則は、平成7年4月21日から施行し、平成7年4月1日から適用する。

富山大学事務組織規則等の一部改正

富山大学事務組織規則等の改正理由

国立大学及び国立短期大学の事務局等の部、課及び室に関する訓令（昭和42年文部省訓令第20号）の一部改正により、附属図書館に事務部長並びに情報管理課及び情報サービス課が設置されたことに伴い、所要事項を改める。

富山大学事務組織規則等の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成7年4月1日

富山大学長 小 黒 千 足

富山大学事務組織規則等の一部を改正する規則

（富山大学事務組織規則の一部改正）

第1条 富山大学事務組織規則（昭和39年1月1日制定）

の一部を次のように改正する。

第3条に次の1項を加える。

4 附属図書館の事務部に情報管理課及び情報サービス課を置く。

第13条を次のように改める。

第13条 情報管理課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 附属図書館の事務に関し、総括し、連絡調整すること。
- (2) 附属図書館に係る庶務、会計及び施設に関すること。
- (3) 図書館資料の選択、発注、検収及び登録に関すること。
- (4) 図書館資料のデータベース作成に関すること。
- (5) 所掌事務の調査統計に関すること。
- (6) その他情報サービス課の所掌事務に属しないこと。

第13条の次に次の1条を加える。

第13条の2 情報サービス課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 図書館資料の保存及び配架並びに閲覧室及び書庫内の整理保全に関すること。
- (2) 閲覧及び貸出し並びにこれらについての調査に関すること。
- (3) 開架書庫の企画編成に関すること。
- (4) 相互利用に関すること。
- (5) 文献の撮影、複写及び印刷に関すること。
- (6) 図書館業務における電子計算機処理システムに関すること。
- (7) 案内広報に関すること。
- (8) 図書館資料の調査研究に関すること。
- (9) 所掌事務の調査統計に関すること。

第14条第1項中「各事務部」を「各事務部（附属図書館を除く。）」に改める。

（富山大学公務員宿舍委員会規則の一部改正）

第2条 富山大学公務員宿舍委員会規則（昭和38年11月1日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1項第2号中「及び学生部次長」を「学生部次長及び附属図書館事務部長」に改める。

（富山大学事務電算化委員会規則の一部改正）

第3条 富山大学事務電算化委員会規則（昭和54年12月21日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1項中第4号を第5号とし、第3号の次に次の1号を加える。

(4) 附属図書館事務部長

（富山大学文書処理規則の一部改正）

第4条 富山大学文書処理規則（昭和63年3月31日制定）の一部を次のように改正する。

第9条第2項第7号を次のように改める。

(7) 附属図書館長あてのもの 事務部長

同項中第10号を第11号とし、第9号を第10号とし、第8号を第9号とし、第7号の次に次の1号を加える。

(8) 附属図書館事務部長あてのもの 情報管理課長別表1中

「富大図第 号 附属図書館所管のもの」を

「富大図情管第 号 附属図書館情報管理課所管のもの

富大図情サ第 号 附属図書館情報サービス課所管のもの」に改める。

（富山大学文書決裁規則の一部改正）

第5条 富山大学文書決裁規則（昭和48年12月21日制定）の一部を次のように改正する。

別表第2（学部、附属図書館関係）第1号及び第2号中「学 部 長 を「学 部 長 に改め、第9号、附属図書館長」 事務部長」

第12号、第15号及び第16号中「事務長」を「事務長 事務部長」

に改め、第20号中「事務長」を「事務長 に改め、主管課長」

第21号中「事務長 を「事務長 に改め、附属学校長」 情報管理課長

第22号中「事務長」を「事務長 に改め、第23号中「学 部 長 を「学 部 長 に改める。

附属図書館長」 事務部長」

（富山大学公印管理規則の一部改正）

第6条 富山大学公印管理規則（昭和48年4月13日制定）の一部を次のように改正する。

別表第1中

附 属 図書館	富山大学附属図書館の印	28	事 務 長	総務係長	
------------	-------------	----	-------	------	--

附 属 図書館	富山大学附属図書館の印	28	情報管理課 長	総務係長	
------------	-------------	----	------------	------	--

改め、別表第2中

附 属 図書館	富山大学附属図書館長の印	30	事 務 長	総務係長	
	富山大学附属図書館事務 長の印	20	”	”	

附属図書館	富山大学附属図書館長の印	30	情報管理課長	総務係長
	富山大学附属図書館事務部長の印	23	”	”
	富山大学附属図書館情報管理課長の印	20	”	”
	富山大学附属図書館情報サービス課長の印	20	情報サービス課長	”

に

改める。

(富山大学防火管理規則の一部改正)

第7条 富山大学防火管理規則(昭和39年9月18日制定)の一部を次のように改正する。

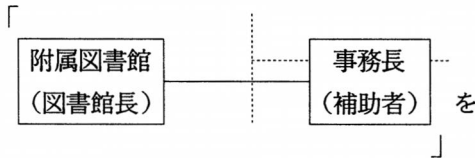
別表第3第3項第3号中「, 学生部次長」を「, 学生部次長, 附属図書館事務部長」に改める。

(富山大学電気工作物保安規則の一部改正)

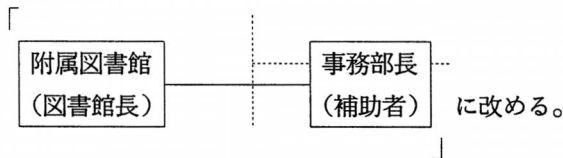
第8条 富山大学電気工作物保安規則(昭和41年3月15日制定)の一部を次のように改正する。

第4条第5号中「, 事務長」を「, 事務長又は事務部長」に改める。

別表第2中



を



に改める。

(富山大学附属図書館資料管理事務取扱規則の一部改正)

第9条 富山大学附属図書館資料管理事務取扱規則(昭和35年4月22日制定)の一部を次のように改正する。

第10条中「富山大学附属図書館閲覧規則」を「富山大学附属図書館利用規則」に改める。

別表中

閲覧係長	附属図書館に所属する資料の出納及び保管に関する事務
------	---------------------------

を

情報サービス係長	附属図書館に所属する資料の出納及び保管に関する事務
----------	---------------------------

に

受入係長	附属図書館に所属する資料の供用に関する事務
------	-----------------------

を

図書情報係長	附属図書館に所属する図書の供用に関する事務
雑誌情報係長	附属図書館に所属する雑誌の供用に関する事務

に

改める。

附則

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

富山大学職員健康安全管理規則の一部改正

富山大学職員健康安全管理規則の改正理由

- 1 厚生課の事務の効率化を図るため、保健係を廃止し、専門職員の事務を整備することに伴い、所要事項を改める。
- 2 国立大学及び国立短期大学の事務局等の部、課及び室に関する訓令(昭和42年文部省訓令第20号)の一部改正により、附属図書館に事務部長並びに情報管理課及び情報サービス課が設置されたことに伴い、所要事項を改める。

富山大学職員健康安全管理規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成7年4月1日

富山大学長 小黒千足

富山大学職員健康安全管理規則の一部を改正する規則

富山大学職員健康安全管理規則（昭和51年10月1日制定）の一部を次のように改正する。

附 則

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

別表第1中

「保健係長」を「厚生企画係長」に改め、

附属図書館	事務長	総務係長	事務長	総務係長	附属図書館	を
-------	-----	------	-----	------	-------	---

附属図書館	情報管 理課長	総務係長	情報管 理課長	総務係長	附属図書館	に
-------	------------	------	------------	------	-------	---

改める。

富山大学に勤務する職員の勤務時間等に関する規則の一部改正

富山大学に勤務する職員の勤務時間等に関する規則の改正理由

- 1 平成6年11月24日付け文初小第368号文部事務次官通達に基づき、附属小学校、中学校、養護学校及び幼稚園において、平成7年4月1日から休業日として、新たに毎月の第4土曜日を加え、月2回の学校週5日制を実施するため、所要事項を改める。
- 2 学校週5日制実施により、附属中学校の授業時間帯が変更することに伴い、所要事項を改める。
- 3 寄宿舍の調理に関する業務に従事する職員が平成7年3月31日限りで退職し、別表第3の当該職員の項に掲げる該当職員がいなくなったことに伴い、所要事項を改める。
- 4 附属図書館に勤務する職員のうち、土曜日に関覧業務に従事する職員の当該半日勤務時間の割振りを円滑に行うため、所要事項を改める。

富山大学に勤務する職員の勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成7年4月1日

富山大学長 小 黒 千 足

富山大学に勤務する職員の勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則

富山大学に勤務する職員の勤務時間等に関する規則（平成4年5月1日制定）の一部を次のように改正する。

別表3を次のように改める。

別 表 3

職員の区分	割振り単 位 期間	週 休 日	勤 務 時 間	休 憩 時 間	休 息 時 間
教育学部附属 小学校の教員	52週間	日曜日並びに毎 月の第二土曜日 及び第四土曜日 並びに夏季・冬 季等の休業期間 中に学長が指定 する7日以上の 勤務日	月曜日から金曜日まで 午前8時30分 ～午後5時	午後1時 ～午後1時30分	午前10時35分～午前10時50分 午後3時50分～午後4時5分
			土曜日 午前8時30分 ～午後0時30分		午前10時35分～午前10時50分
教育学部附属 中学校の教員	52週間	日曜日並びに毎 月の第二土曜日 及び第四土曜日 並びに夏季・冬 季等の休業期間 中に学長が指定 する7日以上の 勤務日	月曜日から金曜日まで 午前8時30分 ～午後5時	午後0時40分 ～午後1時10分	午前9時40分～午前9時50分 午前11時40分～午前11時45分 午後1時10分～午後1時25分
			土曜日 午前8時30分 ～午後0時30分		午前9時55分～午前10時 午前11時50分～午後0時
教育学部附属 養護学校の教員	52週間	日曜日並びに毎 月の第二土曜日 及び第四土曜日 並びに夏季・冬 季等の休業期間 中に学長が指定 する7日以上の 勤務日	月曜日から金曜日まで 午前8時30分 ～午後5時	午後0時40分 ～午後1時10分	午前8時55分～午前9時 午前10時30分～午前10時40分 午後3時20分～午後3時35分
			土曜日 午前8時30分 ～午後0時30分		午前8時55分～午前9時 午前10時30分～午前10時40分
教育学部附属 幼稚園の教員	52週間	日曜日並びに毎 月の第二土曜日 及び第四土曜日 並びに夏季・冬 季等の休業期間 中に学長が指定 する7日以上の 勤務日	月曜日から金曜日まで 午前8時30分 ～午後5時	午後0時30分 ～午後1時	午前10時15分～午前10時30分 午後1時 ～午後1時15分
			土曜日 午前8時30分 ～午後0時30分		午前10時15分～午前10時30分

職員の区分	割振り単位期間	週休日	勤務時間	休憩時間	休息時間	
教育学部附属 学校に勤務する職員のうち、 授業等に関連する業務に従事する職員で 学長が指定する者	4週間	A 日曜日及び 土曜日	月曜日から金曜日まで 午前8時30分 ～午後5時	午後0時15分 ～午後0時45分	午後0時～午後0時15分 午後0時45分～午後1時	
		B 日曜日並びに毎 月の第二土曜日 及び第四土曜日	月曜日から金曜日まで (半日勤務日を除く。) 午前8時30分 ～午後5時	午後0時15分 ～午後0時45分	午後0時～午後0時15分 午後0時45分～午後1時	
		並びに学長が指 定する1の土曜 日	月曜日から金曜日 の1の半 日勤務日	A 午前8時30分 ～午後0時30分		午前10時～午前10時15分
		又は 日曜日並びに第 二土曜日又は第 四土曜日及び学 長が指定する2 の土曜日	日勤務日	B 午後1時 ～午後5時		午後3時～午後3時15分
			土曜日 午前8時30分 ～午後0時30分			午前10時～午前10時15分
附属図書館に 勤務する職員 のうち、土曜 日に閲覧業務 に従事する職 員で学長が指 定する者	4週間	A 日曜日及び 土曜日	月曜日から金曜日まで 午前8時30分 ～午後5時	午後0時15分 ～午後0時45分	午後0時～午後0時15分 午後0時45分～午後1時	
		B 日曜日及び学長 が指定する3の 土曜日	月曜日から金曜日まで (半日勤務日を除く。) 午前8時30分 ～午後5時	午後0時15分 ～午後0時45分	午後0時～午後0時15分 午後0時45分～午後1時	
			月曜日から金曜日 の1の半 日勤務日	A 午前8時30分 ～午後0時30分		午前10時～午前10時15分
			日勤務日	B 午後1時 ～午後5時		午後3時～午後3時15分
			土曜日 午後0時30分 ～午後4時30分			午後3時～午後3時15分

附 則

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

諸 会 議

第7回学長候補者選挙管理委員会（4月14日）

（議 題）

- (1) 第6回委員会記録の確認について
- (2) 選挙記録の確認について
- (3) その他

第1回部局長懇談会（4月21日）

（議 題）

- (1) 当面の諸問題について
- (2) その他

第1回評議会（4月21日）

（審議事項）

- (1) 富山大学学則の一部改正について（継続）
- (2) 富山大学大学院学則の一部改正について（継続）
- (3) 富山大学学則の一部改正について
- (4) 富山大学附属図書館商議会規則及び富山大学学部
図書委員会規則の一部改正について
- (5) 富山大学名誉教授称号授与について
- (6) 学生の除籍について
- (7) 平成7年度大学祭に伴う休業日について
- (8) その他

第8回生涯学習教育研究センター準備委員会（4月24日）

（議 題）

- (1) 富山大学生涯学習教育研究センターの歳出概算要
求書について
- (2) 報告書（「生涯学習推進のために」）について
- (3) その他

第1回授業料等減免選考委員会（4月26日）

（議 題）

- (1) 平成7年度大学院入学生の入学料免除者の選考に
ついて
- (2) 平成7年度学部入学生の入学料免除者の選考につ
いて
- (3) 授業料免除者選考基準について
- (4) その他

第1回事務協議会（4月27日）

（議 題）

- (1) 当面の諸課題について

学 事

平成7年度国際研究集会派遣研究員の決定

所 属・職	氏 名	研 究 集 会 名	開 催 地	開 催 期 間
理学部・教授	川 崎 一 朗	第21回測地学・地球物理学連合総会	アメリカ 合 衆 国	7.7.10 7.7.14
工学部・教授	塩 澤 和 章	第2回表面処理効果の計算機手法及び実験的測定に関する国 際会議	イタリア	7.6.7 7.6.9

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容
採用	7. 4. 3	片 山 進		技能補佐員（厚生課調理師）
	7. 4. 13	林 敏 和		事務補佐員（附属図書館情報サービス課）
	”	青 山 拓 也		” （ ” ）
	”	大 久 保 英		” （ ” ）
	”	岩 城 時代美		” （ ” ）
	”	西 村 憲 一		” （ ” ）
	”	近 藤 俊 彦		” （ ” ）
	”	中 川 祐 子		” （ ” ）
	7. 4. 17	室 谷 智		技術補佐員（経理部主計課）
	”	柴 田 元 衛		” （ ” ）
	”	水 巻 純 一		” （ ” ）
	7. 5. 1	丹 羽 弘 一		講師（人文学部）
臨時的任用	7. 4. 11	平 野 砂都美		文部事務官（経済学部）（～7. 8. 31）
辞 職	7. 4. 30	鍛冶田 信子	事務補佐員（附属図書館情報管理課）	退職
職務命令	7. 4. 18	奥 田 都	文部技官（教育学部）	兼・技術部技術長心得
併 任	7. 4. 2	時 澤 貢	教授（工学部）	工学部長・評議員（～9. 4. 1）
育児休業	7. 4. 11	鳥 海 衣美子	文部事務官（経済学部）	育児休業（～7. 8. 31）

学 内 諸 報

－ 新たに 6 氏が本学名誉教授 －

名誉教授の称号授与される

本年3月末をもって退職されました観山雪陽氏（元教育学部教授）、武暢夫氏（元経済学部教授）、後藤克己氏（元理学部教授）、多々静夫氏、嶋尾一郎氏、田中久彌氏（以上元工学部教授）の6氏に平成7年4月21日付けで名誉教授の称号を授与することが決まり、去る4月27日(木)に小黒学長から称号記が伝達されました。

以下に新名誉教授を紹介します。



名誉教授
観 山 雪 陽
京都大学大学院文学研究科
修士課程修了
文学修士

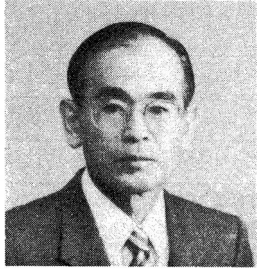
同氏は、昭和31年3月京都大学大学院文学研究科修士

課程を修了後、華頂短期大学講師、助教授を経て、同42年4月滋賀大学教育学部講師に採用され、同44年4月滋賀大学教育学部助教授、同46年4月滋賀大学教育学部教授に昇任、同55年4月から2年間滋賀大学教育学部附属幼稚園長を併任されました。

その後、昭和57年10月富山大学教養部教授に配置換、平成5年4月富山大学教育学部教授に配置換、同7年3月31日限り停年により退職されました。

この間、終始懇篤な温情をもって学生の教育・指導に専念され、多数の優秀な教育者を育成し、信頼しうる人材を社会に送り出されるとともに、研究面では、カント哲学を中心として研究され、ドイツ観念論、イギリス経験論、さらには親鸞思想とも関連させて考察することにより、カント哲学研究を深化・発展させられました。

その研究成果は多数の著書・論文として発表されまし



名誉教授
武 暢 夫
京都大学大学院経済学研究科
修士課程修了
経済学修士

同氏は、昭和30年3月京都大学大学院経済学研究科修士課程を修了、同33年3月同大学大学院博士課程を単位修得した後、同34年1月富山大学経済学部助手に採用になり、同35年6月同大学経済学部講師、同37年2月同大学経済学部助教授、同53年2月同大学経済学部教授に昇任、以後、教授として意欲的に研究教育活動に取り組み幾多の業績をあげるとともに学内の要職を兼ねられる等、富山大学の発展に貢献され、平成7年3月31日限り停年により退職されました。

同氏は、36年の永きにわたり西洋経済史の担当教官として研究教育に従事され、常に厳正な姿勢のなかにも終始懇篤な温情をもって学生の教育・指導に当たられ、幾多の有為な人材の育成に尽力されました。

この間、学内においては、昭和61年9月から同63年9月まで富山大学経済学部長、同54年8月から同60年7月



名誉教授
後 藤 克 己
北海道大学理学部化学科卒業
理学博士

同氏は、昭和48年10月富山大学文理学部教授に就任され、同52年5月富山大学文理学部改組により富山大学理学部教授となり、平成7年3月31日限り停年により退職されました。この間、本学教官として21年有余の永きにわたり、文理学部理学科並びに理学部化学科及び生物圏

たが、中でも「カントにおける『直観』について」や「カントと親鸞における弁証論的問題」等のカント哲学研究の論文は学会から、独創的研究として高い評価を受けました。

また、「プロレゴメナ」等三編のカント哲学に関する純学術的訳書を刊行されるなど、我が国のカント哲学研究の進展に貢献されました。

及び同63年9月から平成5年7月まで富山大学評議員として深い学識と高い見識をもって大学の管理運営に精励され、大学並びに学部の充実発展に多大な貢献をされました。

一方、学術研究面では、16～18世紀のイングランドにおける農業近代化と農村社会の変容及び17世紀のヨーロッパの全般的危機の経済背景についての研究に取り組み、その中で、従来の研究史の主流である16～18世紀のイギリス農業史の特質である地主指導の農業革命を近代的農業の形成という観点からもっぱら肯定的に評価し、産業革命にも促進的役割を果たしたと考えていたが、次第に疑問を感じ、16～17世紀イギリス農業史の実態、特に農民経済の動向の究明が必要であると考え、各種の荘園文書、農民の遺産目録等の資料の分析に基づく個別的・地域的研究を積み重ねてきた。その結果、16～17世紀のイギリス農業の発展過程において地主主導の農業革命に代替しうる農民基盤の農業革命の可能性も存在したことを究明することができました。このことは、イギリス農業革命の再評価、さらには農業発展と工業発展の関連の問題にも関わる意味をもつものといえ、それは永年の研究と成果を踏まえたものだけに、学会等においても高く評価されています。

環境科学科において化学（分析化学）を担当し、常に厳正なる教育姿勢のなかにも、終始懇篤な温情をもって学生の教育・指導に当たり、多数の優秀な研究者、技術者、教育者を育成し、また、信頼しうる人材を卒業生として様々な社会に送り出されました。

学内においては、永年にわたり本学廃液処理施設運営委員会委員長や廃液処理施設長を務め、廃液処理施設の改築に尽力し、本学における公害防止に貢献されました。また、昭和58年4月2日より平成3年5月1日まで評議員として大学の管理運営に参画し、大学の発展に尽力するとともに理学部の発展、充実に貢献されました。

同氏の研究活動としては、無機イオンの加水分解重合

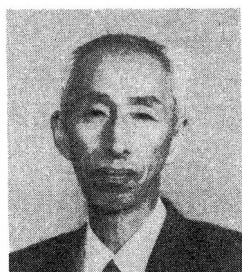
の研究、水中の有害微量成分の簡便な分析法の開発、疎水性相互作用の分析化学への応用、水中の有害物質の除去などを終生の研究テーマとし、大きな業績を残されました。これらの研究の成果は国際的にも高く評価をされ、内外の多くの論文や著書に引用されました。これらの業績により平成3年度日本分析化学会賞を受賞、並びに富



名誉教授
多々 静 夫
富山大学工学部金属工学科卒業
工学博士

同氏は、昭和30年3月富山大学工学部金属工学科を卒業後、同年10月富山大学工学部実験実習指導員に採用され、その後、同33年10月富山大学助手工学部、同39年4月富山大学講師工学部、同41年8月富山大学助教授工学部を経て、同52年10月富山大学教授工学部に昇任され、平成7年3月31日限り停年により退職されました。また、昭和45年5月には、「快削性黄銅の被削性に関する金属学的研究」の研究論文により、東京工業大学から工学博士の学位を取得されました。

この間、39年6月の永年にわたり富山大学工学部において教育・研究に精励し、研究の場においては厳しい反面、学生・教職員はもとより卒業生や多方面の社会人の方々が気楽に研究室を訪問される雰囲気、気取らない人柄と様々な問題に対して常に親身になって献身され、これらの人々から絶大な信頼を受けておられました。また、同氏の薫陶を得て社会に巣立った多くの卒業生が第



名誉教授
嶋 尾 一 郎
高岡工業専門学校化学工業科卒業
理学博士

同氏は、昭和24年3月高岡工業専門学校化学工業科を卒業後、同25年4月富山大学高岡工業専門学校実験実習指導員に採用され、その後、同28年4月富山大学助手工学部、同39年4月富山大学講師工学部、同44年4月富山大学助教授工学部を経て、同63年4月富山大学教授工学

部は、山県の委員として地域の環境保全に貢献したことが認められ、平成5年環境庁長官表彰を受けました。

一方、学外においては、日本分析化学会の代議員、理事、中部支部長、学会誌編集委員、討論会実行委員長を務めるなど、学会の発展に貢献されました。

一線の研究者・技術者等として活躍していることが、卓越した教育者であることを如実に物語っております。

研究面では、非鉄金属材料の組織と被削性の関係について研究され、特に鉛入り黄銅の研究においてはJIS規格の見直しをするべく指針を示し、伸銅業界に大きく貢献され、昭和42年11月に日本伸銅協会伸銅技術研究会から第1回の技術論文賞を受賞されました。更に、アルミニウム及びその合金の鑄塊にみられる羽毛状組織について、その発生条件を独自に開発した実験装置で明確にして軽金属学会誌に発表し、昭和62年11月に軽金属学会論文賞を受賞されております。その他アルミニウム基複合材料に関する研究、黄銅の相分解に関する研究、Al-Mg-Si合金の時効析出に関する諸問題の研究等について基礎から応用まで幅広い分野で活躍されました。

一方、学内では、昭和54年7月から昭和56年7月まで附属図書館工学部分館長、その間附属図書館長事務代理も勤められ、また、昭和62年4月から平成5年4月まで評議員、平成3年4月から平成5年4月まで工学部長として大学の管理運営に参画し、工学部の学科改組、大学院博士後期課程の設置、マレーシア工科大学との学术交流協定の締結、教養部廃止に伴う4年一貫教育の実施、自己点検評価等に直接関与し、大学の充実・発展に多大な貢献をされました。

部に昇任され、平成7年3月31日限り停年により退職されました。また、昭和57年3月には、「On the Wallach Rearrangement and the Related Reactions of Azoxybenzenes (アゾキシベンゼン類のワラッハ転位及びその関連反応について)」の研究論文により、筑波大学から理学博士の学位を取得されました。

この間、45年の永きにわたり高等教育に尽力され、特に同氏の真面目な人柄と熱心な教育は、学生の心を引き付けて勉学意欲を高めたことにより、多大な教育効果がありました。同氏の薫陶を受けて社会に出た多くの卒業生が、研究・教育者や技術者等としてそれぞれ活躍していることは、同氏が卓越した教育者であることを如実に

示しております。

研究については、工業材料として極めて広範に使用される多種類の有機化合物製造の基礎となる有機合成の反応に関する研究に心血を注がれ、特に芳香族親電子置換反応の機構的研究及び液晶材料の一つであるアゾキシベンゼン類の化学的性質の研究において新奇な転位反応を

発見するなど有機合成化学の発展に大きく寄与されました。

一方、学内にあっては、大学院委員会、教務委員会、入学者選抜方法研究委員会及び入学試験実施委員会等の委員並びに工学部教務委員長、工学部概要編集委員等を歴任され、大学の発展に貢献されました。



名誉教授
田 中 久 彌
大阪府立浪速大学工学部
工業化学科卒業
工学博士

同氏は、昭和28年3月大阪府立浪速大学工学部工業化学科を卒業後、同年4月大阪府立浪速大学助手工学部に採用され、その後、同37年11月大阪府立大学講師工学部、同40年4月大阪府立大学助教授工学部を経て、同44年4月富山大学教授工学部に就任され、平成7年3月31日限り停年により退職されました。また、昭和40年2月には、「充填層内粒子一流体間の物質移動に関する研究」の研究論文により、大阪府立大学から工学博士の学位を取得されました。

この間、42年の永きにわたり高等教育に尽瘁し、特に本学工学部においては、拡散単位操作講座及び生物プロセス工学講座の担当教授として、終始懇篤な温情をもって学生の教育・指導にあたられ、幾多の優秀な人材の育成に尽力されました。

学内においては、昭和46年7月から昭和48年7月まで

附属図書館工学部分館長、その間附属図書館長事務代理及び評議員を勤められ、更に大学院委員会委員、図書館商議員、入学試験関係委員等として大学の発展・充実に寄与されました。

研究分野では、最近の生体関連産生物質の分離精製プロセスの重要性から、精密成分分離プロセスとしてのクロマトグラフィーの操作設計に工学的な見地より何が問題なのかを明らかにするとともに、在来の手法の具体的な設計手順の改良に取組み、より新しい設計手法を開発されました。一方、バイオリクターに組み込まれた成分分離操作とその装置内では、混相間の移動現象的な挙動が非常に複雑多岐にわたることから、従来の充填層型の混相接触装置の研究に更に新しい手法を取り入れ、流動パラメータの新しい解釈とそれによる流れ挙動の解析・整理にあたられ、これらの研究の成果は数多くの著書、論文等として発表されております。

学外においては、化学工学会評議員、北陸化学工学懇話会理事、富山県公害対策審議会専門委員、富山県環境審議会専門委員、富山県地域エネルギー利用調査検討委員会委員、富山県資源有効利用システム研究委員会委員等を歴任され、学会及び地域社会の発展に多大な貢献をされました。

「平成6年度エネルギー管理功績者」に工学部宮下教授



工学部の宮下尚教授が、「平成6年度エネルギー管理功績者（熱部門）」として通商産業大臣から表彰されました。

功績概要は、宮下教授の研究がエネルギー管理の重要性を深く認識し、多年にわたりエネルギー利用技術の向上に精励され、エネルギー資源

の有効利用に寄与されるところ極めて大なるものがあるとして表彰されたものです。

表彰式は、去る2月1日(木)に財団法人日本科学技術振興財団の科学技術館において行われました。

このたびの通商産業大臣表彰に際し、宮下教授は「永年にわたる伝熱現象やエネルギー管理に関する研究の成果が、省エネルギー・省資源の観点から評価されたようです。」と喜びを語っておられました。

海 外 渡 航 者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	教育学部	教授	山 極 隆	アメリカ合衆国	米国における科学教育現状調査等のため	7.4.6) 7.4.15
	工学部	助教授	小 原 治 樹	ス イ ス	ISM11国際会議（電気加工国際シンポジウム）出席及び研究発表のため	7.4.15) 7.4.25
海外研修	経済学部	教授	中 藤 康 俊	大 韓 民 国	環日本海経済交流に関する調査・資料収集	7.4.3) 7.4.7
	工学部	助手	前 田 寧	ド イ ツ	時間分解赤外分光法による光合成活性中心における電子伝達の解析のため	7.4.16) 8.4.14
	経済学部	教授	武 井 勲	アメリカ合衆国	リスクマネジメント国際会議に出席及びリスクマネジメント実態視察・調査	7.4.19) 7.5.4

外 国 人 来 訪 者

氏名 (国籍)	本国における 所属機関・職名	来学目的	本学受入れ先	期間
楊 玉 生 (中国)	遼 寧 大 学 教 授	学 術 交 流 (富山大学国際交流事業による共同研究)	経 済 学 部 教 授 桂 木 健 次	7.4.10) 7.6.20
具 正 欽 (韓国)	江 原 大 学 副 教 授	表 敬 ・ 視 察	経 済 学 部 長 増 田 信 彦	7.4.24
李 志 (中国)	中国南京師範大学 講 師	日 本 魯 迅 研 究 史 (1940年～)の研究	人 文 学 部 教 授 三 宝 政 美	7.4.1) 8.3.31

職 員 消 息

<住所変更>

部 局 名	官 職	氏 名
庶 務 部	事務補佐員	浅 畑 美香子
経 理 部	文部事務官	松 永 良 成
教 育 学 部	教 諭	高 畑 庄 蔵
経 済 学 部	助 教 授	西 村 秀 二
経 済 学 部	助 手	織 田 松 美
理 学 部	教 授	久 保 文 夫
理 学 部	助 教 授	石 岡 努
工 学 部	助 手	駱 琴

<新任者住所>

部 局 名	官 職	氏 名
庶 務 部	庶務部長	磯 村 成
庶 務 部	文部事務官	寺 林 真佐美
庶 務 部	文部事務官	小 路 隆
庶 務 部	人事課長	中 村 敏 朗
庶 務 部	文部事務官	中 田 孜
庶 務 部	文部事務官	宮 原 進
庶 務 部	文部事務官	松 田 玲 子
庶 務 部	文部事務官	高 邑 英 市

部 局 名	官 職	氏 名
庶 務 部	文部事務官	澤 崎 勝 彦
経 理 部	経 理 課 長	船 崎 昌 治
経 理 部	事務補佐員	橋 本 公三英
学 生 部	文部事務官	赤 井 弘 人
学 生 部	入 試 課 長	野 田 優 明
学 生 部	文部事務官	濱 野 松 男
保健管理センター	講 師	西 村 優紀美
人 文 学 部	助 教 授	赤 尾 千 波
人 文 学 部	外国人教師	ローベ、ザビーネ・ エーデイト
人文学部・理学部	文部事務官	市 川 勇
人文学部・理学部	文部事務官	西 尾 久
人文学部・理学部	文部事務官	能 波 輝 之
人文学部・理学部	文部事務官	山 崎 昌 代
人文学部・理学部	文部事務官	石 坂 稔
人文学部・理学部	文部事務官	小 林 雄 二
人文学部・理学部	文部事務官	城 村 浩 司
教 育 学 部	教 授	黒 柳 晴 夫
教 育 学 部	教 授	古 川 政 明
教 育 学 部	助 教 授	竹 井 史
教 育 学 部	助 教 授	鼓 みどり

部 局 名	官 職	氏 名
教 育 学 部	助 教 授	樋 野 幸 男
教 育 学 部	講 師	山 根 拓
教 育 学 部	副 校 長	北 岡 勝
教 育 学 部	教 諭	横 野 誉 子
教 育 学 部	教 諭	野 畑 明 仁
教 育 学 部	教 諭	長 濱 由 香
教 育 学 部	文 部 事 務 官	竹 内 勝
教 育 学 部	文 部 事 務 官	三 室 龍 一 郎
教 育 学 部	文 部 事 務 官	川 原 卯 吉
経 済 学 部	講 師	鍋 島 直 樹
経 済 学 部	講 師	青 木 亮
経 済 学 部	助 手	坂 出 健
経 済 学 部	文 部 事 務 官	江 幡 隆 一
経 済 学 部	文 部 事 務 官	櫻 井 雅 和
経 済 学 部	文 部 事 務 官	藤 井 栄 吉
経 済 学 部	文 部 事 務 官	加 藤 尚 弘
経 済 学 部	文 部 事 務 官	高 柳 裕 子
経 済 学 部	文 部 事 務 官	荒 井 誠 一
経 済 学 部	文 部 事 務 官	光 澤 和 嗣
経 済 学 部	文 部 事 務 官 (臨時的任用)	平 野 砂 都 美

部 局 名	官 職	氏 名
理 学 部	助 教 授	栗 本 猛
理 学 部	助 手	横 山 初
理 学 部	助 手	石 崎 泰 男
工 学 部	助 手	山 根 岳 志
工 学 部	助 手	加 賀 谷 重 浩
工 学 部	文 部 技 官	黒 田 靖 子
工 学 部	文 部 技 官	丸 山 博
工 学 部	文 部 事 務 官	大 島 千 春
工 学 部	文 部 事 務 官	西 村 孝 司
工 学 部	文 部 事 務 官	松 下 慶 子
工 学 部	事 務 補 佐 員	神 保 暁 子
工 学 部	文 部 技 官	井 澤 真 由 美
附 属 図 書 館	事 務 部 長	高 砂 慶
附 属 図 書 館	情 報 サービス 課 長	重 里 信 一
附 属 図 書 館	文 部 事 務 官	畠 山 美 苗
附 属 図 書 館	事 務 補 佐 員	中 川 祐 子
水 素 同 位 体 機 能 研 究 セ ン タ ー	文 部 技 官	原 正 憲

<改 姓>

部 局 名	官 職	氏 名	旧 姓
保 健 管 理 セ ン タ ー	文 部 技 官	角 間 純 子	松 井

訃 報

富山大学名誉教授 入澤壽夫氏逝去



本学名誉教授入澤壽夫氏が平成7年4月13日に逝去されました。享年82歳。

同氏は、昭和10年3月東京帝国大学文学部心理学科を卒業し、同年5月恩賜財団愛育研究所嘱託となり、同12年4月愛知県宝飯郡形原尋常高等小学校代用教員、同13年4月名古屋市園町尋常小学校代用教員を経て、同年9月名古屋職業紹介所職業技手に任ぜられました。

その後、昭和15年12月司法省（後の法務省）に入省し、司法保護官補に任ぜられ、以来、同17年6月矯正院教官、同19年7月に少年保護司、同20年3月には矯正院教官、同21年6月少年保護司、同22年6月松江少年審判所へ配置換、同年11月には司法教官として美保少年院第一課長となりました。更に、昭和24年4月多摩少年院勤務、同25年5月に中央矯正保護研修所勤務、同年6月に同所教務課長、同年11月東京拘置所保安課警備事務取扱、同26年6月に三重少年学院長に配置換、同29年3月には大分少年鑑別所長となられ、各矯正教育施設の要職を歴任されました。次いで同30年3月富山大学教育学部教授に就任され、同53年4月1日をもって、停年退官されました。同年同月本学発展のために尽力した功績により、富山大学名誉教授の称号が授与されました。

同人は引き続いて、埼玉工業大学教授に就任され、昭和58年3月まで教鞭（心理学担当）をとり、同59年4月、埼玉工業大学名誉教授の称号が授与され、その後、同60年11月3日多年にわたり高等教育等に貢献した功績により、勲三等旭日中綬章が授与されました。

富山大学での教育者・研究者としての同氏は、教育学部教育心理学の主任教授として、学科の充実発展に尽す一方、特に同氏の専門とする教育心理学の立場から、社会心理学の研究を推し進め、これまでの様々な経験に基づき、非行少年の犯罪心理を理解するため、臨床体験を通して、その心理を把握することの重要性を提唱され、学生と共に少年鑑別所や少年院を訪ねて実地観察参加を図られました。

同氏は、その研究成果を自己の教育研究のみにとどめず、広く地域社会へと目を向け、富山カウンセリング研究会の設立に尽力されました。同研究会の発展のために同氏は、県下の司法、保護観察、社会福祉、学校、病院、各種相談所等の諸関係機関に呼びかけ、スタッフの充実に努め、自らも会長に就任するなど、同会の指導的役割を果たすとともに、富山県下における「カウンセリング」についての基盤を確立した功績は高く評価されています。

更に、学生の情緒不安定による一時帰休者や退学学生の継年的増加について、関係者の憂慮する深刻な事態を事前に防ぐため、早期発見・早期治療の必要性を説き、本学に赴任するやいなや、学生相談所の設置を強く要請されました。その熱意が実り、昭和30年8月本学に富山大学学生相談所が開設し、同氏は自ら率先して同所委員として参画し、学生カウンセリングの推進を図られ、熱意をもって学生相談に応じ、学生の精神衛生上の良き相談相手として、献身的努力を惜しまれませんでした。

同氏は、人格清廉、資性温厚かつ誠実にして識見高く、卓越した行政・教育・研究者の範として、その職務を遂行され、永年にわたり終始熱意をもって学生の教育と指導にあたり、特に「教育心理学」を担当し数多くの有為な人材を育成してきました。

以上のように同氏は、大学に於ける教育と研究、特に教員養成並びに大学の厚生補導に精励・尽力され、地域社会に及ぼした影響は多大なものがあり、その功績はまことに顕著であります。

ここに同氏の御功績を偲び顕彰するとともに、御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

主 要 行 事

本 部

- 4月10日 入学式(富山市公会堂)
教養教育オリエンテーション
学生部・保健管理センターオリエンテーション
- 11日 情報処理センター運営委員会
- 12日 就職に関する講演会(黒田講堂)
外国人留学生(学部新入生)に対するオリエンテーション
- 12～13日 平成7年度国立学校施設実態調査説明会(東京医科歯科大学)
- 13日 前学期授業開始
- 14日 学長候補者選挙管理委員会
自己点検評価委員会委員長と各専門委員会
主査・副主査打合せ会
一般設備費等, 宮籍関係経費ヒアリング
(文部省)
第1回留学生指導相談室運営委員会
第1回留学生部会, 留学生会館運営委員会
- 17日 政府調達に係る説明会(文部省)
情報処理センター運用計画小委員会
- 18日 第1回放射性同位元素総合実験室運営委員会
第5回仕様策定委員会(事務用電子計算機システム)
第1回廃液処理施設運営委員会
- 19日 外国人留学生に対する日本語補講オリエンテーション
厚生補導関係事業及び留学生関係事業文部省ヒアリング
平成7年度大学・高等奨学事務協議会及び奨学事務説明会(愛知県産業貿易会館)
- 20～21日 東海・北陸地区国立学校等会計系部課長会議(静岡大学)
- 21日 第1回自己点検評価委員会
第46回北陸信越地区国立大学図書館協議会(上越教育大学)
- 24日 第1回会計係長会議
第1回低温液化室運営委員会
- 25日 第1回教養教育委員会管理運営専門委員会
- 26日 中部地区人事担当課長会議(人事院)(金沢国税局)

- 学内概算要求ヒアリング
授業料等減免選考委員会
公務員採用試験に関する説明会(黒田講堂)
- 27日 第1回教養教育委員会企画専門委員会
名誉教授称号記授与式
事務電算化委員会
平成7年度当初予算勉強会(金沢大学)
- 28日 第1回自己点検評価委員会管理運営専門委員会
学務関係係長会議

人 文 学 部

- 4月5日 人事に関する検討委員会
学部学生生活委員会
- 10日 大学院人文科学研究科新入学生オリエンテーション
- 11日 学部予算委員会
教授会
教授会(人事)
大学院人文科学研究科委員会
学部図書委員会
- 12日 学部新入生オリエンテーション
新入生健康診断
独立大学院研究科(博士課程)に関する人文学部及び経済学部の合同委員会
- 13日 前学期授業開始
- 17日 『人文学部のしおり』編集委員会
- 18日 留学生受入れに伴う専門教育教官の採用に関する条件等検討委員会
- 19日 学部情報処理委員会
人事に関する検討委員会
学部将来計画委員会
学部入学者選抜方法検討委員会
- 25日 学部教務委員会
学部教育実習委員会
- 26日 教授会
教授会(人事)
- 28日 学部図書委員会

教育学部

- 4月5日 学部学生生活委員会
学部教務委員会
人事教授会
教授会
附属小学校第1学期始業式
- 6日 附属小学校入学式
附属中学校及び附属養護学校第1学期始業式
- 7日 学部教育実習検討委員会
附属中学校及び附属養護学校入学式
附属幼稚園始業式
- 10日 学部将来計画委員会
- 11日 附属幼稚園入園式
- 11～12日 平成7年度教育学部新入生合宿研修（国立立山少年自然の家）
- 13日 授業開始
- 14日 学部教育実習検討委員会
- 17日 学部就職指導委員会
- 19日 学部教務委員会
教授会
教育学研究科委員会
- 20日 教員養成実地指導講師選考委員会
- 26日 人事委員会
学部入学者選抜方法検討委員会
学部将来計画委員会小委員会
人事教授会
- 27日 紀要編集委員会
学部図書委員会

経済学部

- 4月4日 大学院経済学研究科委員会小委員会
学部教務委員会
- 5日 論集委員会
人事教授会
大学院経済学研究科委員会
教授会
学部図書委員会
- 7日 学部施設整備委員会（持ち回り）
- 10日 夜間主コース新入生オリエンテーション（富山市民プラザ）
- 12日 独立大学院博士課程設置に伴う合同打合せ会
昼間主コース新入生オリエンテーション（黒田講堂）

夜間主コース各学科オリエンテーション

新入生健康診断

- 13日 前学期授業開始
- 17日 学部入学方法検討委員会
- 18日 日本海経済研究所運営委員会
- 19日 教授会
コンピュータ管理運営委員会
- 20日 富山大学経済学部校舎新営その他工事安全祈願祭
- 25日 学部教務委員会
- 26日 日本海経済研究所運営委員会

理学部

- 4月6日 学科長会議
学部予算委員会
- 7日 学部学生生活委員会
学部入試改善委員会
- 11日 理学研究科委員会教務検討小委員会
学部就職指導委員会
- 12日 学部新入生オリエンテーション
新入生健康診断
学部図書委員会
大学院理学研究科委員会
教授会
人事教授会
大学院理学研究科委員会専任教授会
- 13日 前学期授業開始
- 19日 学部教務委員会
理学部案内編纂委員会
- 25日 大学院設置構想推進委員会
学部情報化対策検討委員会
- 26日 学部予算委員会
- 26日 学科長会議
- 27日 学部図書委員会
- 28日 理学部案内編纂委員会

工学部

- 4月4日 学部教務委員会
学部運営委員会
学部学生生活委員会
- 5日 教授会
研究科委員会
専任教授会

- 博士後期課程委員会
6日 欧文概要編集委員会
10日 入学式
11日 学部就職指導委員会
12日 学部新入生オリエンテーション
13日 授業開始
19日 学部教務委員会
 新入生健康診断
20日 学部施設整備委員会
21日 学部入学試験検討委員会
24日 学部運営委員会
25日 学部施設整備委員会
 工学部案内編集委員会
26日 教授会
 研究科委員会
 博士後期課程委員会

附属図書館

- 4月20~21日 第46回北信越地区国立大学図書館協議会
 (上越教育大学)
24日 第1回附属図書館商議会

水素同位体機能研究センター

- 4月25日 第1回水素同位体機能研究センター運営委員会
 第1回水素同位体機能研究センター専門委員会

地域共同研究センター

- 4月7日 地域共同研究センター運営委員会
14日 地域共同研究センター講演会

保健管理センター

- 4月12日 新入生健康診断(人・経・理学部)
19日 新入生健康診断(教・工学部)
24日 X線間接撮影(3年・4年・大学院男子)
25日 X線間接撮影(3年・4年・大学院女子)
26日 在学生定期健康診断(教育学部)
27日 X線間接撮影(3年・4年・大学院女子)
28日 X線間接撮影(3年・4年・大学院女子)

資 料

平成7年3月卒業生数

○ 学 部

学部	入学年度		5	3	2	元	63	62	61	合 計
	学科 (課程)									
人文学部	人 文 学 科			92	13			1		106
	語 学 文 学 科			84	5	1	1			91
	計			176	18	1	1	1		197
教育学部	小学校教員養成課程			90	3	1				94
	中学校教員養成課程			40	3	1				44
	養護学校教員養成課程			18						18
	幼稚園教員養成課程			28	1					29
	情報教育課程			34	3	1	1			39
	計			210	10	3	1			224
経済学部	昼 間 主 コース	経 済 学 科	1	128	13	2				144
		経 営 学 科		123	10	2		1		136
		経 営 法 学 科		91	6	2				99
		計	1	342	29	6		1		379
	夜 間 主 コース	経 済 学 科	1	12		1				14
		経 営 学 科		20	2					22
		経 営 法 学 科		12	2				1	15
		計	1	44	4	1			1	51
計			2	386	33	7		1	1	430
理学部	数 学 学 科			29	12		2			43
	物 理 学 科			23	11	5				39
	化 学 学 科			36	9					45
	生 物 学 科			28	4	1	2			35
	地 球 科 学 科			22	8	1				31
	計				138	44	7	4		
工学部	電子情報工学科			94	15	4				113
	機械システム工学科		2	62	16					80
	物質工学科			65	17					82
	化学生物工学科			64	4					68
	電気工学科									
	工業化学科					4	1	1		6
	金属工学科					2	2			4
	機械工学科					2	1	1		4
	生産機械工学科					3	1			4
	化学工学科					3	1			4
	電子工学科						5			5
計			2	285	52	18	11	2		370
合 計			4	1,195	157	36	17	4	1	1,414

(注) 平成5年度入学は編入学。

平成7年3月修了者数

○ 大学院

研究科	専攻	入学年度			合計
		5	4	3	
人文科学研究科	日本・東洋文化専攻	12		1	13
	西洋文化専攻		1		1
	計	12	1	1	14
経済学研究科	地域・経済政策専攻	2			2
	企業経営専攻	3	1		4
	計	5	1		6
理学研究科	数学専攻	3			3
	物理学専攻	12	1		13
	化学専攻	13			13
	生物学専攻	8			8
	地球科学専攻	6			6
	計	42	1		43
工学研究科	電気工学専攻	23			23
	工業化学専攻	20			20
	金属工学専攻	14			14
	機械工学専攻	18			18
	生産機械工学専攻	12			12
	化学工学専攻	17			17
	電子工学専攻	23			23
	計	127			127
合	計	186	3	1	190

平成6年度大学院研究科修了者一覧

[人文科学研究科(修士課程)]

専攻	氏名	論文題目
日本・東洋文化 (13名)	上田 崇 仁	日本語と朝鮮語における引用構文の対照研究 － 引用マーカーの働きを中心に －
	小西 光子	会話における沈黙と話題転換
	鈴木 和子	北陸における中世集落の構造 － 遺構の類型的検討を中心として －
	鈴木 諭	洪永期遺運・水利政策の政治史的研究
	湯 麗 敏	周作人と日本文化 － その翻訳理論と実践 －
	深澤 のぞみ	発話の重複についての一考察 － 重複を修復するストラテジーをめぐって －
	藤井 千晶	自動詞・他動詞の対をなす動詞の通時的研究
	松岡 弘二	《壁》 = 安部公房文学の装置と思考
	森 洋子	富山市街地域の地蔵信仰 － いたち川・松川沿いの地蔵についての報告 －
	山田 寛人	植民地朝鮮における普通学校の日本人教員による朝鮮語学習 － 明治期から日本の敗戦まで －
	李 志	日本魯迅研究的萌芽和发軔 － 1920至1940年日本魯迅研究史 －
	劉 曉峰	日本における中国古代年中行事の受容
	植田 晃次	中国の朝鮮族の朝鮮語における「規範語」をめぐって
西洋文化 (1名)	高越 義一	On the Definite Notional Subjects in English there-Sentences

[経済学研究科(修士課程)]

専攻	氏名	論文題目
地域・経済政策 (2名)	奥井 智保	富山県における商業の近代化とまちづくり
	蘇 歴 銘	改革・開放政策の下における都市・農村間所得格差の分析
企業経営 (4名)	小川 浩二	新・日本の雇用慣行に関する一考察 － 終身雇用慣行, 年功賃金制度の今後 －
	下中 俊彦	自動車リースの実証的研究序説
	松原 義弘	障害者雇用法制の現状と課題 － 障害者雇用促進法を中心として －
	沈 嘉 倩	日本企業の中国進出に対するチャンスとリスク － 中国投資リスク・マネジメントの概念と方法の研究 －

[理学研究科(修士課程)]

専攻	氏名	論文題目
数学専攻 (3名)	青木 一人	凸関数の連続性
	斎藤 真一	複素力学系の研究
	関根 浩司	Oscillation Theory of Neutral Differential Equations with Delay
物理学専攻 (13名)	青木 嘉郎	高エネルギーX線トポグラフィによる as-grown CZ-Si 結晶中の微小欠陥の定量的評価
	石川 淳二	Al-Cu-Cr系準結晶およびその近似結晶の構造
	浦岸 博明	波長可変炭酸ガスレーザーを用いた分光系の開発
	高松 靖浩	熱電能の磁場効果
	堂前 秀浩	多様体上の量子力学
	長谷川 勝啓	磁性多層膜 [Co/Cu], [Fe/Au] の巨大磁気抵抗と熱電能
	原 貴信	レーザーを用いた二重共鳴分光
	福山 祥光	プロピオニトリル (C ₂ H ₅ CN) 分子のマイクロ波分光
	藤井 孝大	イオン注入により誘起された結晶格子歪みのX線回折法による研究
	室作 喜代志	Ni/Ti, Ni/Hfの界面における固相反応
	森脇 克也	高階微分を含む正準理論
	陳 巾	量子的状態の間の距離
	小野 邦昭	準結晶の結晶学的研究 Al-Pd-Cr擬似De相およびその近似結晶
化学専攻 (13名)	今泉 純一	イオン対の抽出挙動とその分析化学への応用
	織田 英伸	イソブタンの選択的酸化およびアンモ酸化触媒の探索 - 複合ビスマス・モリブデン酸化物触媒について -
	亀田 栄治	新規なバナジウム(Ⅲ)錯体の構造と物性
	喜多 紀文	振動分光法による相転移の研究
	木村 直正	ブタン酸化による無水マイレン酸合成触媒 (VO) ₂ P ₂ O ₇ の調製と酸化活性
	黒田 和義	クロメン誘導体の合成研究
	近藤 志郎	大環状共役ジケトン化合物の合成と性質
	清水 健司	ポルフィリンおよびフタロシアニン誘導体の合成と性質
	永津 真由美	パラジウム触媒を用いるヘテロ環形成反応の立体制御とその利用
	林 清明	金属りん酸塩によるイソ酪酸メタクリル酸への酸化脱水素反応
	原 正憲	ジルコニウム基合金における水素同位体の吸蔵と構造に関する研究

専攻	氏名	論文題目
	渡邊 静秋	遷移金属触媒を用いる高立体選択的なヘテロ環構築法の開発と天然物不斉合成への応用
	夏 敏	メンブランフィルターを用いる水中の微量成分の濃縮と定量
生物学専攻 (8名)	金子 信章	再授精の情報伝達機構
	佐藤 尚史	バラ科キイチゴ属と同科数属の托葉の形態学的研究
	柴田 優	完全寄生植物ネナシカズラ属に存在するrbcL遺伝子の構造の特徴と機能発現
	渋谷 知子	暗所でのクロロフィル合成に関与するシダ葉緑体遺伝子の構造の特徴
	藤田 謙二	細胞膜シート上の繊毛打頻度の解析
	藤彦 祐貴	キンギョの血中カルシトニン濃度：カルシトニンと生殖生理との関係
	前田 士	クラミドモナスの鞭毛成分に対するモノクローナル抗体 mAb55と mAb79について
	湯川 泰	ゴマにおける脂肪酸不飽和化酵素遺伝子のクローニングと発現
	地球科学専攻 (6名)	北原 健
木戸 瑞佳		降水の酸性度調査と酸性雪の作成
越川 博之		水圧を受ける積雪の変形および破壊 - スラッシュ雪崩の発生機構に関する実験 -
田中 彰子		第四紀の地磁気変動に関する研究 - 中期更新世の地磁気エクスカージョン -
宮本 淳		グリーンランド氷床コアの力学的特性
吉迫 文崇		地震測地周期帯の地球ダイナミクス - コア・アンダートーン, スリヒターモード検出の試み -

[工学研究科(修士課程)]

専攻	氏名	論文題目
電気工学専攻 (23名)	荒井 康寿	ラプラス変換法による音波伝播の境界要素シミュレーション
	稲垣 征司	多足ロボットの歩行運動シミュレーションと設計
	井ノ口 英明	オープンコア形単相リニアアクチュエータに関する研究
	奥田 達哉	伝送線路形変成器の解析
	角谷 和信	視索上核ニューロン活動に対する酸性線維芽細胞成長因子及び関連ペプチドの作用
	河上 寛	単細胞生物の電界融合及び接合と分裂時における電界効果
	北村 充宏	コオロギの求愛歌発音に関与する神経系に関する研究
	木戸 利明	カエル座骨神経における活動電位の発生及び伝導に関する基礎的研究

専 攻	氏 名	論 文 題 目
	五味利彰	入出力線数に制限があるNANDゲート回路の設計法
	佐伯善隆	分布定数形変成器の巻線間電界分布の解析
	作本憲大	降雪電気量測定による冬季雷雲の電氣的振舞いと其の構造の推測
	佐々木超悟	細胞用電気ピンセットの開発とその電界融合-培養装置への応用
	関根佳宏	酸化物粒子を用いた2端子および3端子電力用素子の基礎研究
	高野博之	小脳皮質プルキンエ細胞のコンプレックススパイク活動に対するハルマリンの作用
	館野晃司	二相交流磁気誘導浮揚形リニアモータに関する研究
	福島和之	呼吸リズムの位相遷移に対する歩行開始相の影響に関する研究
	増野武裕	BDD(二分決定グラフ)を用いたNANDゲート回路の設計法
	南島正範	交流フィルタをもつ三相整流回路の高調波電流算定法に関する研究
	保多洋	プロダクション・システムにおけるマッチアルゴリズムに関する研究
	山下智史	ニューラルネットに基づくインピーダンスCTのシミュレーション
	八町暢彦	植物の発芽・発根過程に及ぼす電氣的効果
	チビヨノ ウイボウ	超音波モータの有限要素シミュレーション
陸 渭 明	逆フィルタ法による超音波診断装置の距離測定性能の改善	
工業化学専攻 (20名)	磯 部 淳	フェナジン系抗生物質ラバズシアニンの合成研究
	岡崎芳美	トリシクロ [5.3.1.0] ウンデカトリエニルアニオンの [1,6] シグマトロピー転位
	亀田有純	両親媒性β構造鎖中のピレニルアラニンの円二色性および螢光スペクトル挙動
	熊木悟志	The Oxidative Damage of Biomolecules Induced by "Photo-Fenton's Reagent".
	品川一大	ポリマー吸蔵過酸化水素によるアルケン類のエポキシ化に関する研究
	中野昌司	DNA strand scission and syntheses of new "light-activated reagents".
	伊藤一美	PCR法による人生唾液中の口腔内細胞からのDNA型検出
	濱田一広	Model and Mechanistic Investigation for the Self-Condensation Reaction of Sulfenic Acids
	林屋晶子	窒素原子含有のヘテロ環モノマー類の重合反応
	樋口陽子	夕張、太平洋両炭中の極性成分の化学構造
	平野幸基	S-架橋アヌレン類の合成と性質
福島和彦	Thermal Decomposition and Mass Spectra of Arylphosphoric Triamides	

専 攻	氏 名	論 文 題 目
	不破 茂 朝	ヒドロキサム酸エステル誘導体をアミノ化前駆体として用いる反応系の検討 - スルフィリミン類の新規合成法の開発 -
	堀 井 一 宏	トリチウムの紫外線誘起酸化反応に関する研究 - オゾン添加による反応速度促進機構の解明 -
	三 浦 勝 幸	比較的弱い塩基を開始剤として用いたアンフィフィリック重合
	水 谷 誠	Solcal-ZB Process による石炭の可溶化 - 可溶化機構に就て -
	矢 田 二三子	石炭の化学構造と植物由来成分に就て
	渡 邊 真 弘	環状シアナミド類の熱分解と防燃効果および熱分解生成物のHPLCによる分離定量に関する研究
	管 関 金	シクロブテンを縮環した七員環化合物の合成
	劉 海 明	Synthesis of HNP-1, a Basic Antimicrobial Peptide from Human Neutrophil, and its Membrane Permeabilization Properties
金属工学専攻 (14名)	五百竹 秀 夫	GaによるAl-9mass%Mg合金の耐食性の劣化機構
	池 内 執 一	ニッケル基合金に析出する γ' および γ'' 相の成長に伴う形態変化
	内 田 真 一	浸炭鋼のショットピーニングに関する研究
	奥 村 善 雄	4 2Ni-37Fe-16Cr-3Nb-1.6Ti合金における γ' および γ'' 相の析出と成長
	門 町 清 孝	Sm-Co磁石スクラップからの有価金属の湿式回収
	高 嶋 敏 昭	Ti-15V-3Cr-3Al-3Sn合金におけるPFZの形成に及ぼす熱処理の影響
	竹 内 和 夫	Al-Cu合金の腐食特性に及ぼすAl ₂ Cu金属間化合物の影響
	田 島 淳 郎	純銅の焼純双晶から種付け・一方向凝固した育成粒界に関する研究
	千々岩 徳 承	Fe-Mn酸化物の炭素還元過程における生成炭化物に関する研究
	寺 島 剛 史	溶湯噴射法によるAl ₂ O ₃ p/Al複合材料の粒子分散とその再結晶について
	額 博 志	Al-Mg-Si合金の時効析出に対する加工と予備時効の影響
	前 川 輝 男	Ni-22Cr-9Mo-5Fe-4Nb合金の時効硬化と γ'' 相の成長
	水 野 義 則	Al ₂ O ₃ p/A356合金複合材料のプリスタ及びマイクロ組織におよぼす微細粒子の影響
吉 本 仁	銅-亜鉛合金における α 相の晶癖面に及ぼす亜鉛濃度の影響	
機械工学専攻 (18名)	小 田 久 人	スタaggerド配列フィン付管群の渦発生周波数に及ぼす流れ方向管ピッチおよび管列数の影響
	角 野 真一郎	高温における粉体の断熱特性に関する研究
	小 坂 誠 二	窒化珪素の疲労き裂進展特性に関する研究(応力比並びに応力遮蔽効果について)
	小 林 英 一	小口径水平円管内の気液二相流の流動特性(D=1.8mm,3mm,5mmの実験結果の比較)
	澤 間 和 彦	クリック鞍形板ばねを用いたはいずり型微小走行機械の研究

専 攻	氏 名	論 文 題 目
	新 蔵 利 信	薄膜における転位の応力場に関する分子動力学的研究
	曾 田 利 通	剛体ローラによる転がりすべり接触によって発生・進展するき裂の熱応力拡大係数
	高 橋 文 峰	流動体を媒介させた変位拡大微小機構の研究
	高 山 広 司	摩擦熱を伴う転がり接触を受ける被覆材表面き裂の応力拡大係数
	坪 野 正 寛	大型加熱面のミスト冷却に関する研究
	乗 田 一 憲	熱プラズマ実験装置の試作ならびに放電時のマクロ的特性に関する研究
	東 川 弥	生体硬組織(骨)の疲労破壊に関する研究
	本 多 賢 司	インライン配列 平滑管群の渦発生周波数に及ぼす流れ方向管ピッチおよびレイノルズ数の影響
	本 林 功	窒化クロム被覆鋼の耐食性評価と腐食疲労強度特性に関する研究
	森 本 健 司	自動オンオフ駆動による自由型パイプロインパクトユニットの研究
	渡 邊 弘 毅	スタッドフィン付縦型伝熱面による水の凝固・融解に関する実験的研究
	渡 邊 祐 樹	非定常細線加熱法によるエマルジョンの熱伝導率測定に関する研究
	陣 東	スタッドフィン付縦型伝熱面による水の融解に関する解析的研究
生産機械工学 専攻 (12名)	岩 田 康	ワイヤ放電加工の加工シミュレーション
	笠 次 克 尚	超精密旋盤を用いたゾーンプレート描画に関する研究
	木 本 勉	AI合金粉末成形材料のマイクロ組織制御と強度特性向上に関する研究
	國 友 一 伸	高分子材料の摩擦摩耗特性に関する研究
	斉 藤 雅 之	背景を基準にしたステレオ写真法による三次元座標の決定
	高 橋 英 司	負荷応答型切断システムに関する基礎的研究
	中 川 博	軸力オブザーバの使用によるスプール変位フィードバック型比例弁の特性改善
	中 西 治 雄	アルミニウムディスク加工過程における形状ひずみの発生と残留応力分布に関する研究
	橋 本 清 春	熱間押し出し加工における角形シリンダーの寸法精度向上に関する研究
	村 地 良 二	耐熱難加工合金の超塑性特性評価法に関する研究
	山 本 将 之	相関を用いたサブピクセル画像処理
	李 晶 燁	画像処理による自動供給装置上の工作物の判別
化学工学専攻 (17名)	芦 田 一 夫	筐体内自然冷却システムの高効率化に関する研究
	石 田 彰	傾斜半円柱乱流促進体による伝熱促進 - 最適設置条件と境界厚さとの相関 -

専 攻	氏 名	論 文 題 目
	石 原 学	クロマト分離操作のランタイム最適化
	今 崎 靖 之	コバルト [II] 錯体による酸素の吸着特性
	川 口 浩 一	表面培養法を用いた白色腐朽菌 <i>Coriolus versicolor</i> によるリグニン分解酵素の生産
	木 嶋 敬 昌	液中斜面上での異形微細粒子群の連続分離に関する基礎的検討
	熊 野 晋	2成分溶媒を含むポリマー溶液の乾燥における物質移動機構
	越 間 研 吾	粉粒体挙動に及ぼす粒子形状効果
	武 田 一 広	ポリアクリルアミド加水分解ゲルによる金属イオンの吸着特性
	玉 生 善 彦	回転振動傘型円板による微細粒子群の乾式形状分離 - 分離特性に及ぼす操作条件の影響 -
	西 井 健 一	ダブルジェット式連続乳化器の特性
	彦 坂 道 治	シリカゲルの物性値とその応用
	藤 垣 智 弘	米粒内部の含水率変化に伴う応力変化
	松 村 秀 和	気泡塔内におけるガスホールドアップ分布
	安 川 宏	トリ・n-オクチルホスフィンオキシドによる有機酸の抽出
	山 崎 宏 史	生酵母の特性を利用した有用物質の生産のための新規生物プロセスの開発
	山 根 岳 志	水溶液の加熱冷却による二重拡散対流 - 対流セルの構造と界面近傍での移動現象 -
電子工学専攻 (23名)	和 泉 貴 之	GaAs (001) 面上へのGaSeのヘテロエピタキシャル成長
	稲 葉 博 和	ネマチック液晶セルにおける分子配列 - 配向膜ポリマーの分子構造の影響 -
	大 黒 将 史	ゲートを通過する物体の種類判別と計数に関する研究
	岸 岡 宏 文	液晶の分子構造と壁面配向特性
	木 下 直	自然言語テキストからの知識自動獲得方式の研究
	小 西 慎一郎	RHEED強度振動を用いたBi系酸化物超伝導体薄膜の原子層成長
	米 谷 善 唯	SmA液晶による偏波面制御素子
	米 田 賢 司	Si (001) 基板上へのSi _{1-x} Ge _x 混晶のMBE成長
	酒 井 貞 亮	オブジェクト指向に基づくシーケンス制御用言語のIL言語へのコンパイラの試作
	作 田 定 之	音響的仮想現実感システムの作成
	高 橋 潤	分散型ELパネルのマトリックス駆動特性
	丹 保 哲 也	アントラセン誘導体を用いた有機EL素子の電気的・光学的特性

専 攻	氏 名	論 文 題 目
	辻 正 博	汎用を目指した文書画像認識システムに関する研究
	早 川 孝 一	焦電検出法による硫酸グリシンの強誘電分域構造の観察
	林 一 成	エリアベースマッチングによるステレオビジョン
	林 康 宏	長鎖アルキルTCNQ・LB膜の構造評価
	丸 山 博	文書画像認識システムの視覚障害者用インターフェイスに関する研究
	森 雅 之	Ge/Si (001) 基板上へのInSb薄膜のヘテロエピタキシャル成長
	山 崎 謙 一	知識ベースを利用した自然言語テキスト検索方式の研究
	山 科 徹 也	障害者用情報入力インターフェースに関する研究
	渡 邊 学	反強誘電性液晶の分子配列とその過渡応答特性
	孔 英 奇	カラー画像中の文字列抽出に関する研究
	李 冬 梅	二段階成長法によるSi (001) 基板上へのInSb薄膜の成長と評価

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電話(24)1755(代)